

報告・討論集会 品川の教育改革10年を検証する

品川の小・中学校は、今どうなっているのか

学校選択制と小中一貫校の設置による公教育の変貌と問題点

共催・市民から「品川の教育改革」を考える会
・ 民主教育研究所・教育行財政研究委員会

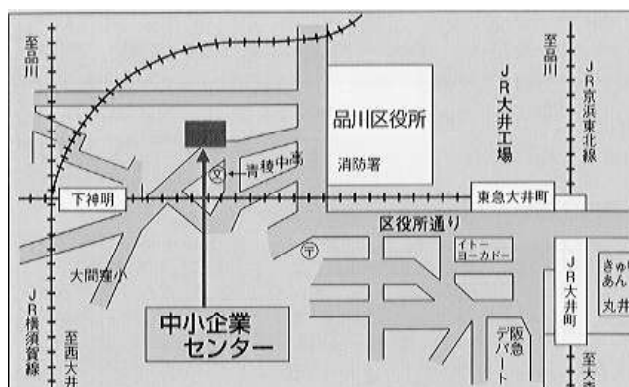
日時 7月27日(火) 6時開場

6:30開会 9時閉会

会場 品川区中小企業センター会議室

参加費 資料代300円

連絡先 ・ 民主教育研究所03-3261-1931



報告と討論

- (1) 品川区の学校選択制度の実態と問題点 佐貫浩(法政大学)
- (2) 全国の小中一貫教育と品川の小中一貫校の現実 山本由美(和光大学)
- (3) 品川の現地からの報告(教職員・父母からの発言)
- (4) 東京における学校選択と小中一貫校の展開と問題点(都内各地からの発言)

全国に先駆けて学校選択制を導入し、選ばれない学校が統廃合で地域から消えていったり、10年前には日本中の誰もが思いも寄らなかった小学校一年生から中学3年生1300人が密着して毎日一緒に生活する小中一貫校(伊藤学園)が出現したり、小学校五、六年生の学級担任制度がなくなったり……この激変を重ねてきた品川の教育改革は、いま一体どこに向かっているのでしょうか。

この「教育改革」について、品川区は、全体として大きな成果を挙げていると評価しています。しかしその下で、親や子どもは日々組み替わる学校制度にさらされ、学校の評判や学力テストの点数に一喜一憂して学校選びに心を費やすようになってきました。私立中学や国立中学への進学を含めると、品川区では区内在住生徒の実に59%が、何らかの形で学区外の学校を選んでいるという実態があります(2009年度)。そのため、「選ばれない学校」では、生徒数が激減し廃校や統廃合を心配されるような事態が生まれています。「選ばれる学校」でも、その生徒のうち3割しか地元生徒がいないというような、地域と切り離された学校の姿が明らかになってきています。

先生方も浮き足だって、この「品川の改革」にどれだけ熱心に取り組んだかで評価される勤務評価にがんじがらめにされて、立ち止まって考える余裕もなく、この教育改革の10年を奔走させられてきました。小学校や中学校の先生がほとんど毎日夜八時、九時まで学校に残って仕事しなければ追いつかないという状況が常態化しています。そういう中で、不幸なことに、2009年度、品川区立の学校で、現職の四〇代の男の先生が、2人も突然死をするという事態まで生まれてしまいました。

今までこのような実態は押し隠されたままで、品川の教育改革が全国に推奨されてきました。しかしあまりにも問題の多い品川の教育改革に、区民の側からも疑問や不信が向けられ始めています。1000人も超すような小中一貫校を選ぶ生徒が減少し始め、高校受験シフトを小学校5年まで下ろして小学校5年生から学級担任制や期末テストを導入するような小中一貫教育にも、疑問が高まっています。

この報告・討論集会では、この間の調査で明らかになってきた学校選択制と小中一貫校の実態について、データ分析結果や聞き取り調査の結果を報告します。またその報告に基づいて、品川の実態を出し合います。さらに都内で学校選択制度や小中一貫教育(小中一貫校)を進めている地域の実態も報告をして頂きます。この10年間の新自由主義に基づく東京での、自治体レベルの教育改革の実態と問題点について、明らかにしていく出発点にしたいと考えています。是非ご参加ください。